

レスポンシブル・ケア活動の推進

—レスポンシブル・ケア 方針—

日本ペイントホールディングスグループは、色彩・景観の創出と素材・資源の保護という社業を通じ、環境美化・環境保全をはじめとしたレスポンシブル・ケア活動に対して積極的に貢献することを理念として、自らの使命と責任を自覚し、社員一人ひとり、グループ全組織が連携して取り組み、世界人類、地域社会、顧客との相互信頼に基づいた関係づくりに寄与する活動を目指す。

- 1) 全ての事業活動において、地球環境の保全と生態系の保護を配慮し、エネルギー・資源の節約に努める。
- 2) 環境に負荷の少ない商品開発と、負荷低減のための技術開発を進めるとともに、商品の開発から廃棄に至るすべての段階で環境・安全・健康に関する配慮を行う。
- 3) 操業にともなう環境への負荷の低減や保安防災に努めながら地域住民、従業員の安全と健康の確保を図る。

レスポンシブル・ケア活動を推進

組織体制

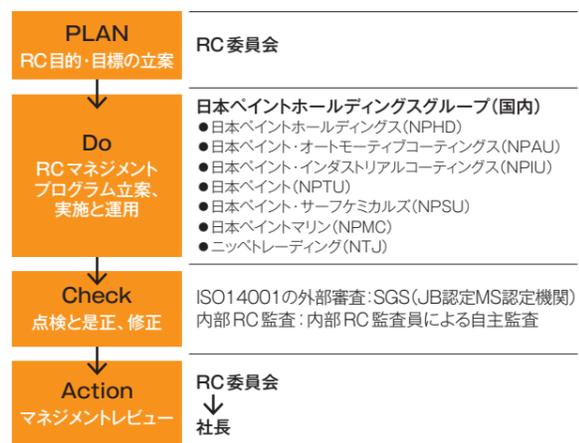
化学物質が環境に及ぼす影響や安全性を把握、管理することは塗料メーカーとして重要な責務と考えています。2010年度から環境だけでなく労働安全衛生や化学品・製品安全の領域まで適用範囲を拡大したマネジメントシステムを構築し、「レスポンシブル・ケア」活動に取り組んでいます。本来の業務

を軸とした活動により、社員の自主自立を促し、有効かつ効率的な運用を行うとともにPDCAサイクルをまわし、より良いシステムへと継続的に改善していきます。

環境・労働安全マネジメント

国内事業会社7社とその子会社を対象として、ISO14001のマルチ認証を取得しています。また、海外グループ各社の安全衛生活動に対して、積極的に支援しています。アジアでは、改善活動が定着するように支援しており、欧米についても監査や是正支援を随時実施。問題解決に向けてコミュニケーションを深めています。

レスポンシブル・ケア組織体制



レスポンシブル・ケア目標・実績

重点テーマ項目	目標	グループ全体の実績
労働安全衛生・保安防災	<ul style="list-style-type: none"> ●リスクアセスメントの網羅性向上と評価結果に基づくリスク低減措置の計画実施およびリスク受容措置の確実な順守 ●労働災害・物的事故件数目標:0件 	各社計画に基づき安全活動を推進。その結果、2019年度のグループ災害件数は21件(前年度は24件で休業災害3件有)、内訳は重大災害1件(左手第1指一部欠損)、休業災害7件、不休業災害13件であった。
環境保全	CO ₂ 排出量削減、エネルギー使用量の削減に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> ●基本のKPI:原単位1%減。 ●産業廃棄物物理量:ゼロ達成および維持 ●大気および水質自主管理基準の順守 ●PRTR対象物質、VOC排出量の削減 ●土壌、地下水汚染事故およびフロン漏えい事故0件 	一部の会社において生産量増加に伴うエネルギー消費量増加や設備トラブル対策による夏期連稼実施等の影響により、CO ₂ 排出量の増加が見られた。一部サイトでの突発工事による廃棄物発生量の増加があった。各社工場および事業所構内での大気・水・土壌の保全については目標を達成したが、2019年1月に発生した製品輸送中のトラック横転漏えい事故により、構外での土壌汚染事故が1件発生した。
化学品・環境安全	「工程短縮」、「環境配慮型」、「低VOC」など塗装または廃棄における環境負荷を低減する商品および塗膜性能により環境負荷を低減できる商品の開発と販売促進ができています。	塗装における環境負荷低減商品(低摩擦抵抗)の販売拡大は計画を上回って着地した。また塗膜性能による環境負荷を低減する商品について基本設計は完了したが、市場導入については遅れが生じたため目標には届かなかった。

環境配慮製品

環境配慮製品の普及に向けた取り組み

当社グループは「製品・サービスによる環境影響の緩和」に取り組んでいます。これからも、さまざまなパートナーシップを通じてイノベーションを創出し、グローバルに展開していくことで、環境問題などの社会課題を解決していきます。

2019年度の取り組み

汎用塗料

NPTUの「パーフェクト インテリア エアークリーン」は社会の安全・安心づくりに貢献する室内用抗菌・抗ウイルス塗料です。

可視光応答形光触媒により、菌やウイルスを抑制する効果があるほか、特殊吸着材の働きで、室内の嫌な臭いを吸着する消臭効果を持っています。製品自体も超低臭で、塗装後も臭いが残らないため、場所を選ばず使用可能です。昨今の新型コロナウイルス感染症流行において非常に注目が集まる製品です。



パーフェクト インテリア エアークリーン

自動車用塗料

自動車の燃費改善には車体軽量化が有効であり、鉄素材に比べて比重が軽い樹脂素材の適用部位が広がっています。NPAUでは、鉄素材と樹脂素材を同時塗装すべく、低温で反応し、いずれの素材上でも必要な性能を発揮する塗料を開発中です。これからも自動車メーカー各社と協働し、環境配慮製品を開発していきます。

工業用塗料

NPIUの遮熱性舗装用塗料「ATTSU-9 ROAD」は、アスファルトに照射する太陽熱を反射し、路面の表面温度上昇を抑制します。VOCを排出しない無溶剤型で、臭気もほとんど発生しません。都市部での気温上昇を抑え、エネルギーの節約に貢献します。



ATTSU-9 ROADで舗装した道路

船舶塗料

NPMCの低燃費型船底塗料は2008年にLF-Seaを導入して以来、その発展型のA-LF-Seaを含め、3,000隻以上の採用実績を得てきました。さらに2020年の導入に向けて低燃費、低VOC、低溶出型の船底塗料FASTARの開発に取り組んでおり、今後も継続して環境保全に貢献できる商品を導入していきます。



LF-Seaを使用した船舶

表面処理

NPSUは環境に優しい皮膜剤を展開しています。この皮膜材は代表的なリン酸亜鉛処理と同等の性能を発揮し、重金属(亜鉛・ニッケル・マンガン)やイオン、リンを含みません。またスラッジ(沈殿物)を1/10に抑えることができるほか、表面調整工程を必要としないため、産業廃棄物と水資源の使用量低減にも貢献します。

Dunn-Edwardsの製品

創業以来、Dunn-Edwardsは環境に配慮した製品の開発を率先して行ってきました。具体的な取り組みの例は、当社の社史とGreener by Designの名前の由来に記載されています。2011年には、Dunn-EdwardsはLEED®Gold認証の製造工場を建設しました。2016年には、「油性」性能を持つ水性塗料「ARISTOSHIELD」を発売。日本ペイントとDunn-Edwardsの間では、多くのコラボレーションが継続的に行われています。



Dunn-Edwards エチレングリコールフリー製品

環境負荷軽減

地球温暖化防止

当社グループは、国内において、エネルギーの使用量削減を主な活動として地球温暖化防止へ取り組んでいます。

2019年度はグループ子会社まで集計範囲を拡大したことを受け、前年度より発生量および原単位において増加しました。

具体的な省エネへの取り組みとして、下記を実施しました。

- 塗料製造工程(分散工程など)の改善
- 高効率ボイラー、高効率受電設備への更新
- 製造現場で使用する大型機器(コンプレッサー、冷凍・冷水機器など)の適切な運転条件の見直し
- その他のオフィスにおけるエネルギー削減活動(エアコンの厳格な室温管理、使用していない事務機器類の電源OFF)

なお、CO₂以外の温室効果ガスの排出は僅少であるため開示していません。

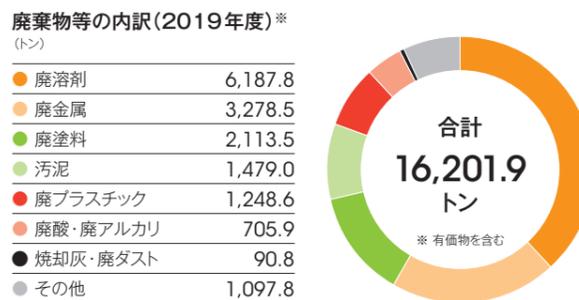


廃棄物等の削減とゼロエミッション

当社グループは、国内において電子マニフェスト制度にも対応できる廃棄物統合管理システムを導入しており、廃棄物等の発生量管理、発生した廃棄物等の適正処理、またその有効利用も含めて活動を展開。グループ全体で廃棄物等の削減に取り組んでいます。

2019年度は一部サイトでの突発工事による土壌排出で排出量が増加しました。また、これに伴い再資源化率についても低下する結果となりました。

引き続き発生量削減と再資源化率100%達成に向け管理強化に努めます。



環境関連の罰金・処罰の総コスト

2019年に当社グループが、日本国内で環境関連の法規制の違反による罰金やその他の制裁措置を受けた事実はありません。

化学物質の総合管理

2019年度の取り組み

塗料には原料に由来するさまざまな化学物質が含有されており、その中には人体や環境に有害な物質が含まれている場合

もあります。化学物質の管理については、RC委員会の下部に位置するグループ製品安全会議において、各社と討議および管理基準を作成。取り扱いの標準化から誤操作の防止を図っています。2019年度は、改正化審法、毒劇物指定令改正にしたがった届出、韓国化評法(K-REACH)における既存化学物質の事前申告対応など国内外法規に適切に対応しました。

有害物質の漏出防止対策

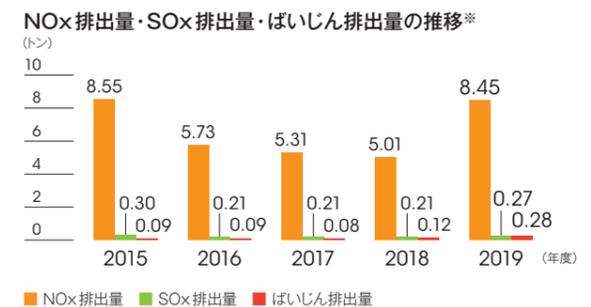
有害物質などの漏出を防ぐための対策検討や漏洩処置資材の確保を行うとともに、毎年地区ごとに実施する防災訓練にて、有害物質の漏出防止に特化した訓練を行っています。例えば、製品運搬中のトラックが一般道路での事故により製品が路上漏えいしたケースを想定し、流出拡大防止・回収作業の訓練を行うことで、問題発生時の速やかな対応力を養っています。



大気・水の保全

当社グループは国内において、自主基準値を定めるなどして、大気汚染および水質汚濁に関する法規制を遵守しています。2019年度はグループ子会社まで集計範囲を拡大したことを受け、前年度より排出量や水利用量は増加しています。

定期的な汚染負荷量測定や製造現場での洗浄工程の効率化や洗浄水の再利用により、大気・水の保全に努めています。



※集計範囲:2015年度 NPAU、NPIU、NPTU、NPSU
2016年度~2018年度 NPAU、NPIU、NPTU、NPSU、NPMC
2019年度 NPAU、NPIU、NPTU、NPSU、NPMC、エースペイント(ASP)、エーエスレジン(ASR)、日本ペイント防食コーティングス(NAC)
集計期間:2016年度のみ4月~12月